

2015 年度 トレーニングルーム 報告書

江見 亮輔

1. トレーニングルームの業務

トレーニングルームの管理業務における主な業務は表 1 に示す。トレーニングルームの管理として、清掃活動、利用人数の管理などを毎日行う業務とし安全管理に繋がるよう行った。また、清掃活動においてトレーニングルームに所属する研修生や課外活動登録クラブといったトレーニングルームに登録するクラブによる団体清掃を定期的に行うことで学生自らが使用する場所を管理していると認識できるよう努めた。

表 1. トレーニングルーム業務概要

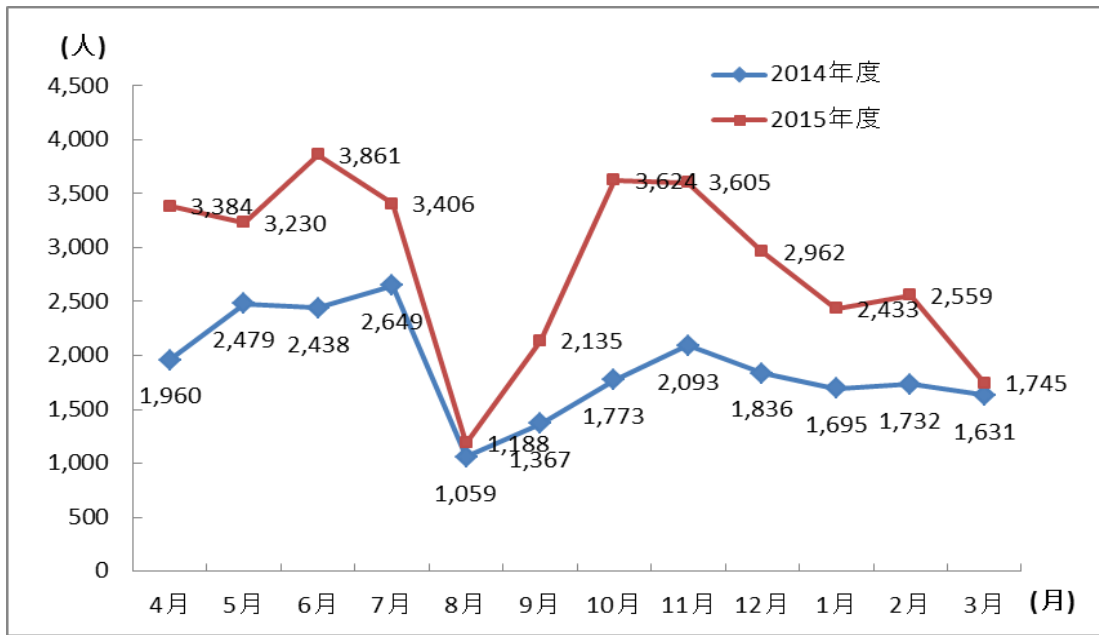
	仕事	頻度	対象	内容
1	開室・閉室	毎日	管理	器具の異常チェック
2	清掃	毎日	管理	室内、器具庫全体の整理整頓
3	備品チェック	毎日	管理	付属備品の確認
4	トレーニングリーダーミーティング	毎月	学生	各クラブのトレーニングリーダーにトレ室の利用方法について連絡
5	クラブ、トレーニングサポート	随時	学生	トレーニングの方法について、個人相談を受け持つ クラブ全体の場合は、トレーニングリーダーからの相談を受け持つ 多角的な視点から競技力向上をサポートする
6	研修生の勉強会	毎週	学生	授業期間に実施。90 分。
7	トレーニング指導研修	不定期	学生	クラブのトレーニング指導時のサポート
8	利用人数管理	毎日	学生	トレーニングルーム利用人数把握 (PSN システム使用)
9	一般開放対応	毎日	一般	利用対応、集計など
10	一般利用 初心者講習会	毎月	一般	器具の使い方等の講習

2. トレーニングルーム利用者

2.1 学生利用実績

2015 年度学生の利用人数は 34,132 名となり、前年度利用人数の 22,712 名よりも約 1.5 倍の利用増となった。在学生の大幅の増加がない中で利用人数増の要因として、学生の利用方法 (PSN 入力の徹底など) に改善が見られたことが考えられる。月別の利用状況は、図 1 に示す

図 1. 月別学生利用状況



2.2 一般開放利用実績

2015年度の月別一般開放利用実績は、図2に示す。2015年度一般開放の開館日程は、平日3日間(月曜・水曜・金曜 学校行事等により一部閉館)の9:00-12:00、13:00-16:00を開放日とし、2015年度は127日の一般開放を行った(表2)。利用人数は、開館日の減少により1,568名と前年度よりも少ない利用ではあるが、開放日1日当たりの平均人数は2015年度12.3人、2014年度で8.6人と開館日数が減少した中でも1日当たりの利用者数は増加している。

図2.月別一般開放利用者数

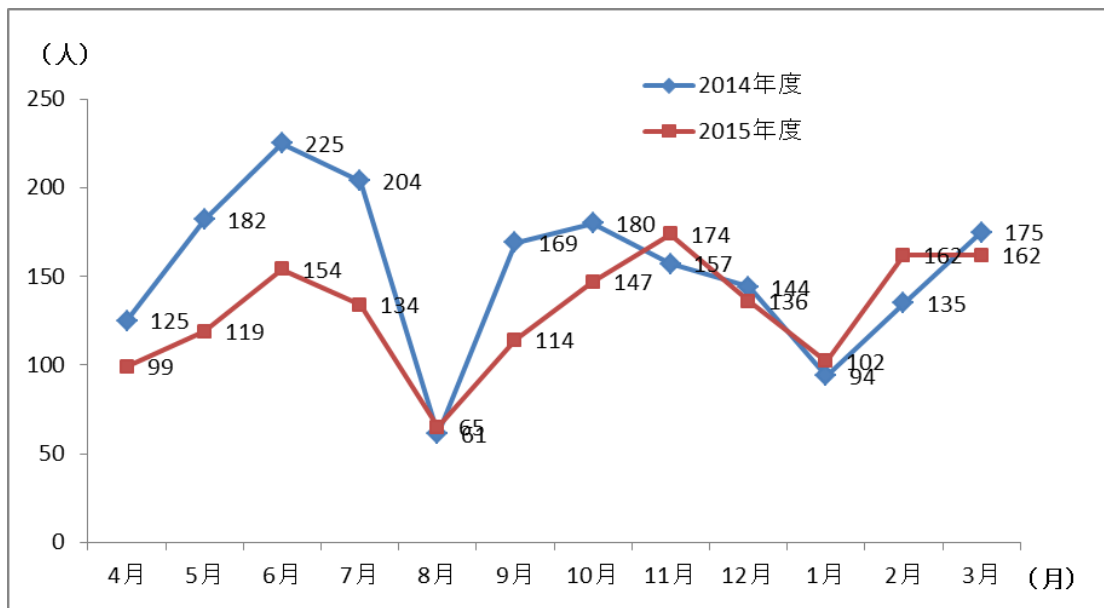


表2.一般開放日数と延べ利用者数

	開放日数(日)	利用者数(人)	1回開放日当たりの利用人数(人/回)
2014年度	214	1,851	8.6
2015年度	127	1,568	12.3

3.今年度改善点

3.1 管理体制の改善

今年度は、学生又は一般の方の利用安全の確保及び監視業務の強化として必ずスタッフ 1 名がトレーニングルーム内にて監視するように徹底した。今年度学生利用者数が 1.5 倍に増加した背景にこの管理業務が大きく影響を与えたことが考えられる。学生は、利用する前に PSN(ポケットセルフナビ)という管理ソフトの入力を行う。2015 年度当初はその入力を怠っている学生が多かったため、未入力問題を解決するために監視スタッフに未入力学生に声をかけるなどを徹底し、モラル・ルールを守るためにも利用する学生が観察されている認識を強く持つようにした。

3.2 施設

3.2.1 施設内配置換え

施設の配置換えを行った。本学の在籍数そして、課外活動従事者の人数を考慮し、利用者が多くなることも考えられるため、より広くそしてトレーニングを行う利用者の導線に滞りが発生しないように配置換えを行った。

3.2.2 施設改修

今年度はトレーニングルームの開学からの利用により、オリンピックリフトを行うエリアの床の耐久性が低下し、損傷及び湾曲したため改修工事を行った。一部床面をコンクリートにし、床の強度を上げトレーニングの強度に耐えられるように強化を行った。

3.2.3 常圧低酸素室

今年度以前より、利用者が少なく定期的な点検が行われていなかった常圧低酸素室の点検及び機能強化(室内を高酸素状況下にすることが可能)を行った。また、システムのメンテナンス及びトレーニング指導を行う為に低酸素システムトレーナーの資格取得に至った。今後、教員の方々の協力を仰ぎ、研究への利用そして学生の競技能力向上の一端となるように利用方法に整備をかけていく必要がある。

4.今後の改善点

今年度以前よりも問題となっている事例として、雨天時や課外活動が行われる時間帯での学生の利用である。トレーニングルームの許容人数は現在 80 名である。しかし、雨天時などで多いときには 100 名を超える利用になる。これは、安全上問題も多くまた、器具に対して人が飽和状態となり満足のいく利用ができない状況である。今年度末に実施した課外活動に対するアンケートの結果をもとに①施設の拡充もしくは機器の増加、②施設の利用制限(利用者の優先順位など)、③管理体制の見直しといった点において検討していく必要がある。